

**製品名: NDRG1 (リン酸化 Thr346) ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab05069**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください (12 ヶ月有効)。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:1000-1:2000
分子量	43kDa

**抗原情報**

遺伝子名	NDRG1
別名	Protein NDRG1 (Differentiation-related gene 1 protein) (DRG-1) (N-myc downstream-regulated gene 1 protein) (Nickel-specific induction protein Cap43) (Reducing agents and tunicamycin-responsive protein) (RTP) (Rit42)
遺伝子 ID	10397.0
SwissProt ID	Q92597
免疫原	ヒト NDRG1 (Thr346) 周囲の合成リン酸化ペプチド

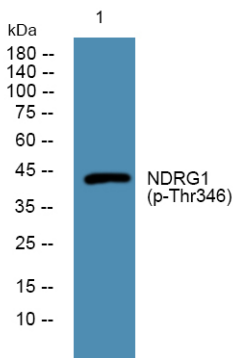
**背景**

この遺伝子は、 $\alpha/\beta$ 加水分解酵素スーパーファミリーに属する N-myc ダウンレギュレーション遺伝子ファミリーのメンバーです。この遺伝子によってコードされるタンパク質は、ストレス応答、ホルモン応答、細胞増殖および分化に関与する細胞質タンパク質です。コードされるタンパク質は、p53 を介したカスパーゼ活性化およびアポトーシスに必要です。この遺伝子の変異はシャルコー・マリー・トゥース病 4D 型の原因であり、この遺伝子の発現はいくつかの種類の癌の予後指標となる可能性があります。この遺伝子では、複数のアイソフォームをコードする選択的スプライシング転写バリエーションが観察されています。[RefSeq 提供、2012 年 5 月]、疾患: NDRG1 の欠陥は、シャルコー・マリー・トゥース病 4D 型 (CMT4D) [MIM: 601455] の原因です。遺伝性運動感覚ニューロパチー Lom 型 (HMSNL) としても知られています。CMT4D は、末梢神経系の最も一般的な遺伝性疾患であるシャルコー・マリー・トゥース病の劣性遺伝形式です。シャルコー・マリー・トゥース病は、電気生理学的特性と組織病理学に基づいて、原発性末梢脱髄性ニューロパチーと原発性末梢軸索性ニューロパチーの 2 つの主要グループに分類されます。脱髄性 CMT ニューロパチーは、神経伝導速度の重度の低下 (38 m/秒未満)、神経生検でのタマネギ球形成を伴う分節性の脱髄および再髄鞘形成、緩徐に進行する遠位筋の萎縮および筋力低下、深部腱反射の消失、および空足が特徴です。慣例により、脱髄性シャルコー・マリー・トゥース病の常染色体劣性形式は CMT4 と呼ばれます。機能:成長阻害の役割を果たす可能性があります。誘導:内皮細胞においてホモシステイン、2-メルカプトエタノール、ツニカマイシンによって結腸癌細胞株 HT29-D4 および Caco-2 の in vitro 分化中に約 20 倍誘導されます。試験したすべての細胞株でニッケル化合物によって誘導されます。誘導の主なシグナルは、ニッケルイオンへの曝露によって引き起こされる細胞内遊離カルシウムイオンの上昇です。セリン/スレオニンホスファターゼ阻害剤であるオカダ酸は、ニッケルよりも迅速かつ効率的にその発現を誘導しました。類似性:NDRG ファミリーに属します。細胞内局在:前立腺上皮および胎盤絨毛膜では細胞質と核の両方に存在しますが、結腸上皮細胞では核染色は観察されません。代わりに、結腸癌細胞株の in vitro 分化中に、その局在は細胞質から細胞膜へと変化します。組織特異性:普遍的; 胎盤膜、前立腺、腎臓、小腸、および卵巣組織で最も顕著に発現します。腺癌では正常組織と比較して発現が低下します。結腸、前立腺、胎盤膜では、内腔に接する細胞で最も高い発現が見られます。

## 研究分野

神経科学

## 画像データ



PC12 細胞溶解液のウェスタンブロット分析、NDRG1 (リン酸化 Thr346) ウサギポリクローナル抗体を 1:1000 に希釈し、4°で一晩